米澤新聞

発行所
米澤新聞社
米沢市門東町3丁目3番7号
電話0238-22-4411
郵便振替口座 山形8-2719
©米澤新聞社2019

米来担う若人を育成

（公社）米沢有為会創立130周年、米澤新聞創刊140年
記念事業
「返済減免の奨学金」
「東京興譲館寮 初の女子入寮も検討」

新春対談

東京などで勉学に挑む青年たちの支援と郷土置賜の振興に取り組んでいる「公益社団法人米沢有為会」は、今年で創立130周年を迎えた。1889（明治22）年が発足年だが、この年の米沢市は山形市とともに市政を施行。それまでの藩を中心にした古い行政施行から近代化へと歩み出している。米沢有為会の事業としては育英・文化事業、会誌刊行などで、中でも最重要の事業はなんといっても高度情報化の東京と仙台で安心して通学させる学生寮の運営。1909（明治42）年からの入寮者数は平成30年度までに2千人を突破している。米沢有為会では創立130周年を迎えた今年、全国的にあり方が問われている奨学金について、従来の貸費型に加え、新たに返済減免型の制度を発足させるための詰めに入っているほか、これまで実現が図られなかった念願の学生寮に女子を受け入れることの検討にも入っている。創立130周年を迎えた米沢有為会の公益事業について、川西町出身で元国立国会図書館長の大滝則忠会長から話を伺った。

お客様　**大滝則忠**　米沢有為会会長

聞き手　**保刈　正男**　米澤新聞社長

保刈正男米澤新聞社長　平成31年が明けました。おめでとうございます。創刊140周年を迎える本紙元旦の「新春対談」は、一貫して青少年の育英と郷土の振興を目指した事業に1世紀以上も前から取り組んでこられた「公益社団法人米沢有為会」の大滝則忠会長さんです。本日はよろしくお願いいたします。早速ですが、創立130周年の節目を迎えられた現在の心境、中長期を見渡した場合の地方のあり方、特に育英事業のあり方などについて順次伺ってまいりたいと存じます。よろしくお願いいたします。

大滝則忠米沢有為会会長　新年おめでとうございます。新春を迎え、置賜3市5町の皆さまのご活躍をお祈り申し上げます。同時に、地域情報を活き活きと発信する貴重な歴史を重ね、今年で創刊140周年を迎えられた米澤新聞の一層のご発展をお祈りいたします。

今年は米沢有為会の創立130年周年の節目で、伝統ある紙上でその活動を取り上げていただくことは、まことに光栄で感謝しています。この機会に、1世紀以上にわたって先人の努力で引き継がれている育英事業の今後のことなど、米沢有為会の活動について、さらに深くご理解をいただくことができれば幸いです。

米沢有為会と名乗ることで、しばしば米沢限定の団体と誤解されますが、もちろん歴史的に見ても米沢との様々のつながりが最も深いものの、創立以来、置賜一円の広がりで活動する置賜の在住者と出身者を中心とする団体として発展してきました。ここでは、単に「有為会」と名乗らせていただいて、話を進め

鞄・ハンドバッグ専門店
株式会社　銀座タニザワ
東京都中央区銀座一丁目7番6号
電話代表（〇三）三五六七－七五一一番

きょう36ページ

〖1号〗
◇1面 恒例・新春対談・大滝則忠米沢有為会会長
◇2面 置賜3市5町首長あいさつ。統一地方選展望
◇3面 大晦日ニュース
〖2号〗
◇5面 沖津信也氏絵画・清野春樹氏作品発表
◇6、7面 米沢・置賜経済人クラブ座談会
◇10面 女子短生に聞く・地元と米沢の魅力
◇11面 あすの米沢織を創る
〖3号〗
◇13面 新春米新歌壇お題「光」
◇14面 モ市との交流「国境を越えて」
◇18面 占い
◇20面 外山滋比古氏「日本一の米澤」
〖4号〗
◇21面 魅せられて 刺し子・日本刀
◇22面 山大工 注目若手の研究
◇24、25面 テレビラジオ
◇27面 遠藤英教諭の〝城下町「米沢」に迫る〟
〖5号〗
◇29面 亥年に寄せて 鳥海隼夫氏
◇30面 年男年女
◇32面 栄養大「いま、後輩に伝えたいこと」
◇35面 スポーツ特集

ていただきたいと存じます。

保刈―― 私ども米澤新聞は明治12年に産声をあげ、今年2月9日に創刊140周年という大きな節目を迎えます。今年は有為会さんと共に二重三重の喜びと思っております。長い歴史の中で諸先輩方の取り組みにも変化があったことを実感し、わが米澤新聞は連綿として変わってない、変えていけないのは「読者のみなさまに地元の出来事などを詳しく私情を挟まずお届けする」ことが新聞としての使命であり、自負と社員一同決意し、今後も継続していく覚悟です。

大滝会長 有為会には、置賜の在住者と出身者を中心に、全国に1千人以上の会員が集っています。中には、置賜出身者の2世や3世の方で、熱心に会員として参加いただいている方々もおられます。このように多くの方々に、会の活動の意義を感じて自発的に入会いただいていることはありがたいことです。多くの人たちが志を一つにして置賜の若人の夢を育英活動で支援する活動を継続してきました。先人たちの努力で110年前に開設された学生のための「興譲館寮」が、現在も東京と仙台で活動しており、郷土置賜出身の若い学生が共同生活をしながら学んでいます。また、108年前に始まった奨学金貸与制度を多くの学生から活用されてきています。

歴史を振り返ると、明治22年、有為会は置賜からの在京学生時の伊東忠太博士ら6人のメンバーで設立されました。まだ米沢まで鉄道が通じていない時代のことでしたが、翌23年には米沢と山形に会員勧誘の遊説があり、年の暮れの名簿には429人が名を連ね、この段階で置賜同郷人の全国的な親睦団体となりました。当初から奨学金とか寄宿舎とか育英事業への意識があり、20年をかけて準備が行われた結果、明治42年の東京興譲館寮の開設、明治44年の奨学金貸与制度の開始として結実しました。このように同郷学生を経済的に支援する育英団体として脱皮してから、その後、大正3年の仙台興譲館寮の開設など、事業の拡張も行われて、その伝統が今に生きている訳です。

未来を担う郷土の若人を様々な形で支援したいという熱意をお持ちの方はたくさんおられます。そういう思いを結集して、有為会が具体的な支援の活動を継続することによって、若人の夢が実現する機会がさらに広がるよう期待しています。

保刈―― 置賜地域3市5町が総務省の定住自立圏形成地域に選ばれ、平成31年度から米沢牛の振興、観光事業の連携などに取り組むなど具体的な事業に入ります。その中で「若手人材のふるさと離れ」にどのように対応するか注目されるが、若い優秀な人材が郷里に戻る、地元に残ってもらうなどの奇抜な方策はないものでしょうか。

大滝会長 奇抜な方策というのは、なかなか思いつかないのですが、置賜の若人にとって地元定着する選択肢が増えるように考えながら活動することが重要だと思っています。昨年から始めた高校生小論文コンテストや、今年度の若人フォーラムの開催は、若い人材が地元に定着して活躍することに少しでも繋がってほしいということを願って取り組んでいることです。私は一昨年の会長就任の直後に3市5町の首長さんに直に会っていただいて、置賜の若人を支援する育英団体として、今後の活動で自治体の行政施策と何らかの連携を深めたいということもお願いしています。若人が地域に定住して活躍することを支援できるように取り組む視点を改めて押さえているところです。

保刈―― 有為会さんは創立130周年の節目として新年度から取り組む事業も多いと思いますが、中でも地方では期待の声が高い「返済しなくともよい奨学金制度」を他の団体などに先駆けて有為会さんが実現させるなどと言う訳にはいかないものでしょうかね。

賀正
上杉神社
松岬神社

同郷の若人支援

大滝則忠氏　**（おおたき・のりただ）**
１９４４年川西町玉庭に生まれ育つ。米沢興譲館高等学校を経て、１９６８年東京教育大学文学部(社会科学科法律政治学専攻)を卒業し、国立国会図書館に勤務。２００６年東京農業大学教授。２０１２～２０１６年第15代国立国会図書館長、館長人事は衆参両院の本会議で議決されるが、生え抜きの職員出身者としては初の就任。２０１６年11月瑞宝重光章受章。現在、２０１７年6月公益社団法人米沢有為会会長、２０１８年6月学校法人大東文化学園理事。

大滝会長　有為会は平成25年に公益社団法人として新しい一歩を踏み出しており、会員の意を受けながら、理事会がさまざま検討して実行していく体制です。理事は現在、首都圏と米沢と仙台から選出されています。創立１３０周年の節目に際し、昨年春に活動ビジョンを定めて公表しました。これを有為会の旗印として会員間で広く共有しながら、有為会の活動を社会に訴えて、より多くの方々のご支援いただこうと思って取り組んでいるところです。

活動ビジョンにはグローバル社会の中で躍動する置賜の未来への貢献を果たすための活動目標として、「未来を担う置賜若人の夢を育英活動で支援する」と「置賜の教育文化産業等の振興に貢献を果たす」の２点を掲げました。この活動ビジョンを１３０周年記念事業の中で実現したいと考えています。その具体的な柱は「学生寮の充実」「奨学金制度の充実」「魅力ある郷土を創る若人交流」などです。

この活動ビジョンと記念事業を多くの方々にご理解をいただき、様々に有為会を支援していただくことをお願いしたいと思います。有為会の会員として入会していただきたいことと、会員になっていただけない場合でも、会の外からの様々なご支援を期待申し上げております。さらに、置賜の内外で様々な活動をされている団体とも連携を密にして取り組んでいきたいと考えながら、新年を迎えたところです。

２０１９年事業

第82回　東北花火大会
第46回　特別支援学級林間学校
第36回　おたかぽっぽクロスカントリー大会
第38回　姉妹都市交流事業
　　　　モーゼスレイク短期交換留学生事業
㈱米澤新聞社

半額返済の奨学金も準備
帰郷めざす若人に恩典

保刈――　いま、奨学金制度の充実が柱になっていると伺いましたが、要望の高い返済不要の奨学金制度の導入など、実現の見通しなどはいかがですか。

返済額の半分免除も

大滝会長　創立１３０周年記念事業の柱として、ご指摘の「返済しなくてもよい奨学金制度」を新たにスタートできるように準備しています。明治以来１０８年になる有為会の奨学金制度は貸与型で、在学期間中、毎月一定額、現在は月4万円を無利子で貸し出して、10年以上をかけて返済してもらうことによって資金を回転させて運用してきています。今日では日本学生支援機構をはじめ各種の奨学金制度がありますが、有為会の貸与型奨学金の継続に対する期待も依然強いところです。学生が様々な選択肢から最適を選んで自分の学業を設計できることが重要です。政府の教育制度改革の一環で、学費の公費支援の施策も考慮されていますが、民間の動きとして、貸与型とは別に返済を減免するような奨学金制度に強い期待があるわけです。多くの動きのひとつとして、有為会は、新たに返済減免型の制度を設けて郷土置賜の活性化に役立つことを考えています。当面は卒業後、置賜３市５町に就職する地元定住者に貸与奨学金の返済の半額を免除する、という新制度を整えて、今年の秋に募集する来年度入学の新入生から適用できるよう詰めているところです。理想的には一切返済しなくともよい給付型も検討しましたが、より多くの若人を対象に安定的に支援を継続できるよう、以上のような返済減免型を導入することにしました。今後、この新たな制度を維持していくためには、より広く浄財をお寄せいただくための募金活動を通じて、一層多くの方から支援していただくことに努めたいと思っているところです。

（つづく）

休刊のお知らせ
きょう1日は、新聞休刊日です。したがって2日付の本紙は、配達になりませんのでご了承下さい。
米澤新聞社

（公社）米沢有為会創立130周年、米澤新聞創刊140年㊤

24個室のうち女子に2室

安心して東京で勉学できるよう取り組む

1月1日付1面からの続き

大滝則忠米沢有為会会長　東京興譲館寮には現在すべて個室で24室があり、男子学生24人が生活しています。そのうち2室程度から始め、徐々に増やして8室規模で女子学生が入居できるよう検討しています。置賜の高校生と親からアンケート回答をいただいてサンプル調査しましたが、首都圏への大学進学を考えている学生数も男女半々という時代になっています。実際の受け入れまでには、そのための施設改修を含めて少し時間を要しますが、できるだけ早い時期に確実に実現できるよう取り組むつもりです。その際、置賜の家族から東京興譲館寮に安心して女子学生を送り出せるという信頼関係も不可欠で、留意しています。男女共同活躍時代の実現に資する有為会の新しい活動のひとつとして取り組みたいと考えています。

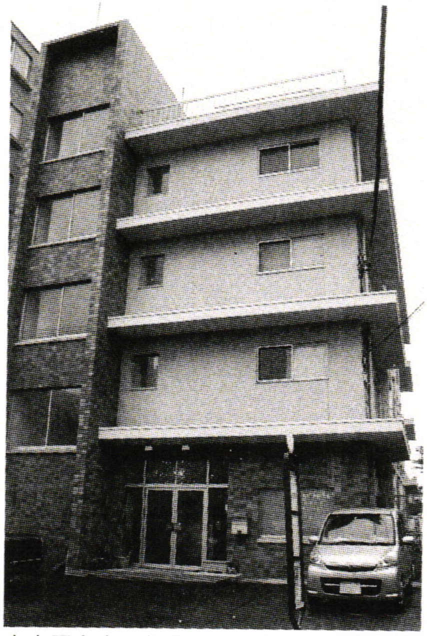
6月22日に米沢で記念式典

保刈正男米澤新聞社長　創立130周年ということで記念式典の挙行などはどのように計画、準備されていますか。

大滝会長　記念式典はじめ、記念講演、祝賀会などの催しを6月22日に米沢で開催することで計画しています。その時期、5月下旬から1か月間、市立米沢図書館の先人顕彰コーナーで展示会「米沢有為会130周年のあゆみ（仮称）」を市立米沢図書館と共催、置賜若人の夢を育英活動で支援してきた歴史をご覧いただいて、有為会を初めて知る方も昔からお世話になっている方にとっても、一層のご理解とご支援が広がることを期待しているところです。戦時中の空襲で、東京・仙台の寮が本部活動資料ともども焼失していますので、モノよりは写真等の展示を中心にあゆみを通覧いただき、これからを展望していただけるように構成したい。そのような展示会を含め、有為会を発信し、様々なご理解を深めていただく機会とさせていただくよう取り組みたいと思っています。

また、歴史を掘り起こして、その掘り起こした歴史が後世に伝えられるように、東京・仙台の寮生がガリ版刷で出していたミニコミ誌なども集めて、市立図書館蔵書に加えていただきたいとも考えています。

保刈——ひと口に「創立130周年」と言ってもこれまで関東大震災、東京大空襲などもあったわけで歴史に重さを感じます。



東京調布市で勉学に励む若人を受け入れている東京興譲館寮

戦後混乱の中で　仙台寮・東京寮を再建

大滝会長　先人たちは空襲を受けて大変苦労されました。関東大震災の時の東京興譲館寮の被災状況がどうであったかは、少し調べが必要ですが、当時の小石川にあった寮は幸い被災を免れました。その後、昭和9年に小石川から新宿西大久保に新築移転しています。小石川と西大久保の寮の開設に当たっては、上杉家から多大な援助をいただきました。そして、戦時中、東京も仙台も共に、空襲で跡形なく焼失しています。

戦後混乱の最中にあっても、先人たちは仙台寮を昭和23年、東京寮を24年に相次いで再建にこぎつけてくれました。そのように同郷学生の育英にかけた先人たちの情熱に、本当に頭が下がります。

その後、昭和41年、木造で老朽化した東京寮をここ調布市に鉄筋コンクリート4階建で新築移転して、もう50年以上が経過しています。10年前には地震に備えて耐震補強工事も行いました。仙台寮も、昭和62年に広瀬川近くに新築移転しています。今後ともそれぞれ改修を重ねて、学生の修学環境の向上に努めていきます。

（公社）米沢有為会創立130周年、米澤新聞創刊140年 ㊥

本間氏の蔵書を整理中

有為会の伝統〝郷土愛〟基盤に率直な交流

保刈正男米澤新聞社長 会長さんは、川西町玉庭のご出身と聞いておりますが、何歳で上京されたのでしょうか。お仕事の場が国立国会図書館と伺っております。清閑な地方から東京居住となると環境面・通勤や生活面でもご苦労があった、と思いますがいま振り返って見て出身地と比べいかがでしたか。

国立国会図書館勤務は通算40年

大滝則忠米沢有為会会長 上京したのは米沢の高校卒業後の18歳の時です。東京オリンピックの年の4月に大学生となって、当時の西大久保にあった東京興譲館寮に入れてもらいました。ずーずー弁も通じるし、置賜同郷の若人の生活の輪にすっかりなじみ、3年生の秋11月にこの調布への新築移転も経験して、結局、学生生活の丸4年間をお世話いただきました。そのような延長上で永田町の国立国会図書館に就職した際も、なんら問題なく順調に対応できたことを感謝しています。

国立国会図書館を副館長として60歳で定年退職し、その後6年間、東京農業大学で図書館情報学の教壇に立ち、67歳の時に館長として元の職場に復帰し、結果的に国立国会図書館には通算40年を勤務することになりました。日本の出版物を中心に、かけがえのない文化資源を集めて継承し、様々な利用に供する仕事をできたことはとても幸運だったと思っています。

今は20歳代からのライフワークとなった近代日本の発禁本の発掘調査に取り組む一方、置賜の関係では、川西町玉庭出身の先達、本間則忠が遺した書簡類等の整理を手伝っています。2年前の夏に、玉庭で段ボール14箱の大量の本間則忠旧蔵文書類が発見されました。則忠は鉄道王根津嘉一郎のもとで大正11年の旧制武蔵高等学校の開校事務のすべてを仕切った人であることから、それらを東京の武蔵学園学記念室に預かってもらい、週1回通って整理しています。その中には実の甥であり養子でもあった愛知大学創立者本間喜一の書簡400通も含まれています。則忠は昭和3年から10年間、米沢に隠居して亡くなっていますが、有為会の創立直後からの会員でもあり、平田東助をはじめ、置賜人脈の交流をうかがわせる書簡類を興味深く読みながら整理しています。

有為会の伝統である郷土愛を基盤にした会員同士の率直な交流を通じた切磋琢磨の姿に触れる思いで、興味は尽きません。

東京興譲館寮内。保護者からの信頼と期待が高い

米澤新聞　2019(平成31)年1月5日号　第1面

（公社）米沢有為会創立130周年、米澤新聞創刊140年 ㊦

好奇心を豊かに

人生を豊かにすると世界感が広がる

大滝則忠米沢有為会会長

１３０年前、同郷の在京学生会から始まり、すぐ全国的な置賜同郷人の親睦団体となり、20年の準備を経て、同郷学生を経済的に支援する育英団体として脱皮して以来の歴史に立って、今後に果たすべき有為会の使命を考えながら、微力を尽くす決意でこの新春を迎えています。今後とも皆様に米沢有為会の活動についてよろしくご理解とご支援をお願いいたします。

保刈正男米澤新聞社長

最後に伺いますが、大滝会長さんが信条とされてきた、好きな言葉にはどのようなものがありますか。また担い手の若い人たちへの〝贈る言葉〟はいかがでしょうか。

座右の銘「近きより」

大滝会長

長く身近に意識しているのは「近きより」という言葉です。もともと高校新聞クラブ活動に熱中して、活字とジャーナリズムの世界に憧れていました。大学卒業のころ、戦時戦後の困難な時代に個人雑誌『近きより』の刊行を続けた正木ひろし弁護士の雑誌創刊の辞に、カーライルの言葉として「汝の最も近い義務を果たせ、汝が義務と思う所を果たせ、しかる時は次に汝の一層重大なる義務が明瞭になるであろう」と引用されているのを読んで以来、身近にあります。最も近きより手掛け始めること、折に触れて、何を優先すべきか考える際に今も生きています。

若い人に贈る言葉は、東京農業大学で若い学生と接していて改めて感じた「好奇心を豊かに」ということ。好奇心が豊かであるということは、人生を豊かにする、世界が広がるし、相手の気持ちを理解することにもつながる、生活を面白くする秘訣だと信じて奨めています。

〝生きざま〟などを力説される大滝則忠米沢有為会会長

保刈――

本日は貴重なお話をいただき誠にありがとうございました。記念する１３０周年事業の成功にご期待申し上げます。